編集後記

■16巻１号をお届けいたします。今回は昨年度の本学会研究奨励賞受賞者論文、欧州時間生物学会若手奨励賞受賞者論文に加えて、４件の総説を掲載いたしました。それぞれ読み応え充分な力作であり、執筆者の方々に感謝いたします。また、本間理事長には、日本の時間生物学の歴史をまとめて頂きました。周期性に関する研究をわが国で最初に行ったのは誰であったかご存知でしたでしょうか。今後世界の研究史についてもご執筆いただけるとのことで、楽しみにお待ちしたいと思います。

■海外だよりには、最近海外で研究室を立ち上げられた名越絵美さんに、そこに到るまでの海外での経験談をお書きいただきました。若い方々には海外でポジションを得るにはどうすれば良いのか、大いに参考にしていただけると思います。

■表紙のデザインは、今回公募による多数の応募作品の中から、厳正な審査を経て採用されたものです。審査の意図やデザインの意味するところなど、審査委員の講評や作者の説明をご覧いただければと思います。また、その他の入賞作品についても本誌の審査結果のページと学会のホームページに掲載されておりますので、是非ご覧下さい。

■さて、新しい年度が始まり既に一月半が経過しようとしています。今年はKonopka＆Benzer(1971) によりショウジョウバエ時計突然変異*period*がPNASに発表されて39年目に当たります。この発見以来、1984年の*period*遺伝子のクローニング、1997年の哺乳類時計遺伝子のクローニングと、13年ごとに時間生物学の大きな発見がなされてきており、今年はその大発見が予測される年に当たります。どのような発見があるのか、大いに期待したいと思います。

時間生物学　Vol. 16, No. 1 (2010)　　平成22年5月31日発行

発行：日本時間生物学会（http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/index.html）
（事務局）〒162-8480　東京都新宿区若松町2-2
早稲田大学先端生命医科学センター　柴田研究室内
Tel&Fax：03-3341-9815
（編集局）〒700-8530　岡山市北区津島中3丁目1-1
岡山大学大学院自然科学研究科　生物科学専攻内
Tel&Fax：086-251-8498
（印刷所）名古屋大学消費生活協同組合　印刷・情報サービス部